

地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	商工観光課
役職	観光交流係
氏名	岩崎泰依
着任日	平成 30 年 10 月 1 日

活動月	令和 2 年 6 月（着任 1 年 9 ヶ月）
主な活動	1. イベント企画・運営 2. 知覧武家屋敷コットンファーム管理

1. 知覧武家屋敷コットンファームの活動

雨にも負けずファームの綿は順調に育ってくれています。花芽を付けた株もあり 7 月になればオクラによく似た花が咲く予定です。晴れた日を見計らって草払いや周りの伸びて垂れ下がっている木の枝を払ったりして、草払い機やのこぎりなどの道具の扱いもだいぶ上達したと思います。倒れそうな株には添え木をしました。添え木には伸びすぎて払った木の枝を再利用しました。見た目はきれいではありませんがお金もかからず役目が終わればそのまま朽ち果てて土に還ります。素人丸出しの洗練されていない畑には良く似合う光景で自分でもなんだか気に入っています。ファームも無事に 2 年目を迎えて今年も今のところ順調に綿も育ってくれています。始めてお会いする方に自己紹介する時も「武家屋敷で綿を育てて糸を紡いでいます」と堂々と言えるのもこのファームが後ろ盾になってくれているような気がしています。ファームがあるおかげで糸紡ぎに興味を持って頂いたりいろいろな方とつながりを持てるきっかけになっています。たくさんの方に愛される場所になってもらえるようにこれからも大切にしていきたいと思っています。



2.その他の活動

和綿の糸紡ぎワークショップの開催

今月から武家屋敷の旧三宅邸をお借りして糸紡ぎのワークショップを開催しています。久々に規模は小さいながらもイベントを開催するにあたり、自分なりに意識していることがあります。

- 1、常に新しい事を提供する
- 2、空間を演出する
- 3、心からのおもてなしをする

1 に関しては来る方の興味の対象によって糸紡ぎだけでなく武家屋敷のご案内や草木染めやチャイの入れ方教室を組み合わせたりしました。会話の中から今日は時間もないけど次はこういうことを一緒にやりましょうという提案をします。何度でも足を運んでもらいたいという事といろいろな仕掛けを考えてびっくりさせたいという想いからです。私としても今までの経験をフルに活用できるこの活動を心から楽しんでいるという部分もあります。

2 に関してはまだまだ不十分だと思っていますが、ただ作業を行う空間という事ではなくそれまでの建物の歴史や趣を活かした設えや人の温もりなどを意識しています。季節のお花や着物、古い糸紡ぎに使う道具などを飾ってみてその場所にいる事、過ごす時間を楽しんでもらいたいと思っています。庭は少しずつ手を入れることで変わっていく様子が興味深く感じると共に知覧の武家屋敷群の圧倒的な美しさは本当に毎日の営みの積み重ねで出来ている尊いものだと思えて気が付かされました。

3 は年齢性別趣味嗜好問わずいろいろなお客様をお迎えする上で分け隔てなく楽しい時間を過ごしていただけるよう自分の出来ることは精一杯やっけていこうという気持ちです。そのためにいろいろ教材を手作りしたりお茶の用意をしたり掃除をしたりお迎えをする準備をすることも楽しみでもあります。

コロナの影響もありまだ多くの方に来てもらうという事が難しい状況ではありますが、今後糸紡ぎをしてみたいから武家屋敷に来るという方が一人でも多くなるよう種まきをしていきたいと思っています。



修学旅行生の受け入れに向けて

今秋のツーリズム協議会を通じての修学旅行生の受け入れに向けて、受入家庭さんに研修として伺いました。その中でまずは自分が修学旅行生になったつもりでどうことが楽しいと感じたり嬉しいと思うかを考えました。まず到着してすぐに「おかえり！」と言ってお迎えをしてくださいました。初めてお会いする方でも緊張の糸がほぐれて距離が近くなった感じがして嬉しかったです。中に入れて頂き部屋に荷物を置いてトイレや洗面などの設備、非常口の案内をしていただきました。掃除が隅々まで行き届いていて手作りの設えがたくさんしてありとても気持ちのいい空間だなと感じました。そのあとゆっくりお茶を飲みながらこの後の予定を自分たちで決めさせるのだそうです。「特別なことはしなくていいからとにかく何でも自分たちでさせることが大事だよ」と教えていただきました。今回の研修で雨の日に家の中で出来る体験、郷土料理・非常食作り体験をさせて頂いたり、一緒に過ごした中でいろんなお話をさせて頂いたことが私にとって今までの経験してきた事とは異なる特別な体験と感じ、同じ市内のお宅にお邪魔したのですが遠くに旅行に行った時のような充

地域おこし協力隊活動報告書

実感を味わう事ができました。普通のホテルや旅館に泊まる旅行と大きく違う点は田舎体験もそうですがそこにいる人とのふれあいが大きいと思います。今まではただお客さんをおもてなしをしているいろんな体験をしてもらえばいいのかなと考えていましたが、思春期の様々な境遇の子供を受け入れるという事を現実に関心を持ち引き締まる思いにもなりました。

私が受入家庭をやってみようと思ったのは、受け入れをされている皆さんが「とても楽しい」とおっしゃる事と、私が普段から感じている都会には無いものが何でもここにはあるし、自分の手で作ることが出来るという事を伝えたいという思いからです。あとは協議会を通じて地域一体となってそのような活動が出来るという事が素晴らしいと感じています。

